

第25号議案

「2022年日本国憲法制定75周年・日中国交回復50年 第4回平和を願う文京戦争展」の後援名義の使用について

上記の議案を提出する。

令和4年5月16日

提 出 者 文京区教育委員会

教 育 長 加藤 裕一

別記様式第1号 (第6条関係)

文京区教育委員会 共催・後援 名義使用申請書

2022年4月15日

文京区教育委員会 殿

申請者 (申請団体) **平和を願う文京戦争歴史実行委員会**

住所 (所在地) **東京都文京区本駒込5-15-12**

代表者名 (ふりがな) **小 竹 弘 子**

代表者連絡先 (事務担当者) **03-3828-2949**

下記事業を実施するに当たり、文京区教育委員会 共催・後援名義を使用したく、申請します。

別 紙 記

事業名		
共催又は後援名義等の使用を必要とする理由		
実施期間		年 月 日 () から 年 月 日 () まで (日間)
実施場所		
事業内容	目的 ※	
	内容	
	対象者	(参加予定人員 人)
	参加費	
他団体の共催、後援等 (申請中、承認済の別)		日本中国友好協会・同東京都連合会
備考		
申請書類一式は、教育委員会会議資料として、HP等で公開いたします。 公開することに 同意する ・ 同意しない		

※ 「目的」は、教育委員会が後援するに当たり、「区立幼・小・中の児童・生徒にとって、どのようなメリットがあるのか」という視点で記載してください。

文京区教育委員会申請

- 事業名 2022年日本国憲法制定75周年・日中国交回復50年
第4回平和を願う文京戦争展
村瀬守保写真展、強制連行・強制労働と万人坑、東京大空襲など
- 後援申請 小中・高校生を初め、教える教師も保護者も戦争を知らない世代
になっており、区民の過半数を超えています。
文京区は「平和宣言」「非核平和都市宣言」をしています。
東京大空襲や原爆等の被害の歴史と共に、その原因となった日本
が中国・アジア諸国を侵略した加害の歴史を正確に伝える事は、重
要になっています。再び戦争を繰り返さないためにも、戦争を知ら
ない世代が見て歴史を知り、話し合う機会をつくることが重要です。
そのためには、教育委員会の後援は欠かせません。
- 実施期間 2022年8月7日(日)から
2022年8月9日(火)まで3日間
- 実施場所 文京シビックセンター アートサロン
- 目的 別紙”事業の目的”
- 内容 村瀬守保氏の戦場での写真、強制連行・強制労働と万人坑の写真・説
明・重慶爆撃、東京大空襲写真
元兵士の証言 DVD
- 対象者 区内小・中学校の児童・生徒・教師・保護者・高校生・大学生・区民
ほか
- 参加費 入場無料
- 他団体共催 日本中国友好協会、同東京都連合会

「平和を願う文京戦争展」 実施要綱・事業計画書

1、事業の目的

「平和を願う文京戦争展」は今年で4回目を迎えます。2019年第1回はマスコミにも取上げられ、1500人を超す方々が来場し、2020年の第2回はコロナ禍で500人、2021年第3回もコロナ第5派の中、400人近い方の来場を得ました。

しかし、10～30代の若い世代がいずれも来場者の20%で、アンケートにも「戦争知らない若い人世代に見てもらいたい」との声が寄せられています。

展示を見た中学生は、日中戦争の実態をきちんと受止める感想を寄せています。

展示する写真の一つは、文京区真砂町生まれの村瀬守保氏が撮ったものです。村瀬氏は戦場写真家ではなく、1937年（昭和12年）輜重兵として召集され、中国大陸を2年半に渡って転戦。愛用のカメラを持ち、自分の所属する中隊全員の写真を撮ることで、非公式の写真班として認められ、3,000枚の戦場写真を撮影した人です。

村瀬氏の写真が広く国民に注目されたきっかけは、2012年村瀬氏の遺族が、遺品の写真約1,000枚分の保存と活用を、日中友好協会に依頼したことから始まります。

日中友好協会は日本兵たちの「人間的な日常」と兵士達が犯した異常的な加害行為などを、克明に記録した写真を通して、村瀬氏が伝えようとした「戦場の狂気が人間を野獣に変えてしまう」というメッセージを重んじて写真展示パネルを、作製しました。

この50枚の写真パネルからセレクトして展示し、戦争の日常と異常、高揚と陰鬱の対比、昨年は無差別爆撃の始まりの一つとしての重慶爆撃の写真も取り上げました。

今年は憲法制定75年、日中国交回復50年を迎えます。

日中戦争中に日本の民間企業と軍隊によって、騙したり強制的に連行され多くの中国人が、劣悪な炭鉱などで強制的な労働によって命を奪われ、構内やその近くの山野にすてられました。「人捨て場」を中国の人は”万人坑”と呼んでいます。

膨大な数の「人捨て場」が中国全土に作られました。その犠牲者数は日中戦争犠牲者のほぼ半数にのぼるとされています。その強制労働や万人坑の加害について取上げます。

これらの歴史を知って「戦争とは」を考えてもらい、話し合ってもらうことを目的にしています。

また、日本が中国を侵略し戦火を広げ、更にアジア・太平洋戦争に拡大した結果、東京大空襲・沖縄の地上戦や広島・長崎の原爆被害へと拡大し、2.100万人に及ぶ中国・アジアの人達の犠牲、310万人の日本人の犠牲を生みました。

戦争で犠牲になるのは、一般市民、女性や子ども達というのは、ロシアのウクライナ侵略でも同じです。核兵器の使用を絶対に許さず、二度と繰り返さないために、戦争の加害と被害について、語り伝えていく企画にしています。

2、事業の計画

村瀬守保氏撮影の写真展、強制連行・強制労働と万人坑写真・資料
重慶爆撃・東京大空襲写真
証言 DVD の上映

「平和を願う文京戦争展」実行委員会

連絡先 小竹紘子

Tel・FAX 03-3828-2949

事業実績

2019年に「平和を願う文京戦争展」は、村瀬守保氏の写真展と文京の空襲の写真を展示し、証言DVDの上映、語り部の話を行いました。

マスコミで取上げられたこともあり、入場者は1,500人超でした。

第2回2020年のコロナ禍で3日間500人の方々、第3回2021年はコロナ禍でも、400人近い方の来場を得ました。

元日本兵が中国での加害体験を語った、証言DVDの上映は会場が借りられなかったため、上映できませんでしたが、多くの方から「ぜひ見たい」の声が寄せられ、今年は見られるようにしたいと思っています。

多くの方がアンケートをよせています。

30才以下の来場者は、第1回目10%、第2回目20%、第3回目17%弱となりましたが、戦争を知らない若い世代の来場は今後の課題です。この面でも文京区や区教育委員会の後援を得て、働きかけを強められることを期待します。

日本政府の見解について 参考資料として提出します、合わせてご検討ください。

貴教育委員会での議論は、あたかも本展示会の内容が政府見解と異なることを前提にして進められていますが、本展示会の内容は歴代の政府が堅持してきた見解に沿うものであることを強調させていただく次第です。

また、2019 年来の貴教育委員会の議事録の一部に、「議論が分かれている内容を扱っており、中立の立場をとるべき教育委員会が後援することは好ましくない」「政治的に非常に対立している問題であるとする」「南京虐殺に関しては政府の見解がまだまだ定まっていない」「事実があったかなかったかというのはわからなくなってしまうという問題」などの記述がありました。念のために、南京事件そのものは否定できない事実であり、犠牲者数をめぐる論争以外はすでに決着がついていることを、以下の事例からもあらためて確認をお願い申し上げる次第です。

外務省のホームページの「歴史問題Q&A」には次のように明記されています。

問 6 「南京事件」に対して、日本政府はどのように考えていますか。

1. 日本政府としては、日本軍の南京入城（1937 年）後、非戦闘員の殺害や略奪行為等があったことは否定できないと考えています。しかしながら、被害者の具体的な人数については諸説あり、政府としてどれが正しい数かを認定することは困難であると考えています。
2. 先の大戦における行いに対する、痛切な反省と共に、心からのお詫びの気持ちは、戦後の歴代内閣が、一貫して持ち続けてきたものです。そうした気持ちは、戦後 50 年に当たり、村山談話で表明され、さらに、戦後 60 年を機に出された小泉談話においても、そのお詫びの気持ちは、引き継がれてきました。
3. こうした歴代内閣が表明した気持ちを、揺るぎないものとして、引き継いでいきます。そのことを、2015 年 8 月 14 日の内閣総理大臣談話の中で明確にしました。

この外務省の公式HPに掲載されているのが日本政府の公式見解であり、1937 年の 12 月に起きた南京事件については、犠牲者の数については諸説あるものの、南京事件は歴史的事実であったことを公式に認め、「お詫びの気持ち」を「揺るぎないものとして、引き継いでいきます」と明言しています。

日本の歴代政権は、日本軍国主義による侵略戦争と、南京事件をはじめとした侵略行為を、否定できない歴史の事実とする見解を引き継いできました。

平和を願う文京戦争展実行委員会会則

(名称・事務所・連絡先)

第1条 本会は「平和を願う文京戦争展実行委員会」と称し、事務所は
東京都文京区本駒込 5-15-12 電話 03-3828-2949

(目的)

第2条 平和を願って戦争を二度と繰り返さないため、加害と被害の歴史を
伝える戦争展を実施することを目的とする

(活動内容)

第3条 前条の目的を達成するために、次の事業を行う

- ① 平和を願う文京戦争展を行う
- ② 目的遂行に関すること

(会員構成)

第4条 目的に賛同する文京区内労働組合、団体、個人で構成する

(役員)

第5条 役員は次の通りとする

実行委員長	副実行委員長	事務局長
会計	会計監査	

この会則は、2021年3月15日より

事業予算書

事業名 林田平和と願う戦争展

団体名 平和と願う戦争展実行委員会

収 入 単位：円		支 出 単位：円	
賛同する団体・個人 の寄付	300,000	会場費	65,900
		パネル借用料	50,000
		〃 送料	10,000
		プロジェクト借用料	5,500
		宣伝費(チラシ等)	7,000
		資料等印刷費	10,000
		講演料	50,000
		予備費	28,600
		会費	10,000
計	300,000	計	300,000

2022年 4月 15日

(備考)

平和区願之文京戦争展実行委員会 名簿

役職	氏名	住所	電話
1 実行委員長	小竹 紘子	文京区本駒込 5-15-12	03-3828-2949
2 副実行委員長	鈴木 勝	越谷市大房 1006-3-B-905 文京区東 (文京区向 5-5-6 昭大前 美付)	03-6801-6259
3 事務局長	植上 一夫	文京区本郷 2-18-8-401	3818-7258
4 会計	笠井 恭子	文京区白山 4-31-4-402	3811-4127
5 会計監査	有園 栄子	文京区千駄木 5-5-7	3827-5976
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			

